

成 元 哲 ゼ ミ

教員の研究関心領域

人と人とのつながりや協調的な行動を促す信頼、互酬性の規範、ネットワークをソーシャルキャピタル (Social Capital) といいます。このソーシャルキャピタルが人々の心身の健康 (Well-being) にどのような影響を及ぼすのかに関心を持っています。具体的には、第1に、友人、家族、コミュニティ、NGO・NPOなど個人を越えた脈絡要因 (ネットワークや関係性) が持つ影響に関連するテーマ、特に、ソーシャルキャピタルとメンタルヘルスとの関連、第2に、自然環境と健康 (Well-being) に関するテーマ、環境と健康の社会学、第3に、日本・韓国・中国の比較社会学に興味を持っています。

4年までのテーマ・方針・内容

2年次は、稲葉陽二著『ソーシャル・キャピタル』(中公新書、2011年)、稲葉陽二他編『ソーシャル・キャピタルのフロンティア:その到達点と可能性』(ミネルヴァ書房、2011年)、野沢慎司編集・監訳集・監訳『リーディングス ネットワーク論:家族・コミュニティ・社会関係資本』、デュルケム著『自殺論』(中公文庫、1985年)など、ソーシャルキャピタルやネットワークに関する優れた文献を講読し、それに関連する実証研究のための予備的調査を行います。3年次は、中野正大・宝月誠編『シカゴ学派の社会学』と菅原和孝編『フィールドワークへの挑戦:<実践>人類学入門』と講読し、本格的なフィールドワークと社会調査を行います。4年次は、2年次、3年次に研究してきたものを卒業論文としてまとめます。成ゼミで行う社会的なフィールドワークの対象や研究テーマは、学生が議論して自主的に決めます。学生が真摯に考えて決めたテーマであれば、いかなるものであれ、可能な限りアシストします。成ゼミで重視するのは特定の研究テーマではなく、研究に取り組む姿勢です。研究はひとりではあるものではありませんし、ひとりでもやろうとしても面白くない。多様な興味関心を持つ仲間たちと切磋琢磨する中で、研究の「面白さ」を「面白く」する、白い仲間を「面白く」する、女子学生が研究を「面白く」する、面白くする。

卒業論文のタイトル例

「ボウリング場の行動学:社交空間における行動パターンに関する研究」
「スケートボーディングのエスノグラフィー」
「ファミレス行動学:常連客の奇異な世界」
「なぜ公害企業は同じ過ちを繰り返すのか:「天下国家の思想」が生んだ体質」
「「水俣病」カテゴリーへの同一化/非同一化の力学」

成績評価 基準・方法

学期末のゼミ論 (70%) とゼミでの報告・討論 (30%) で評価する。無断欠席は禁物!

自己紹介 こんな学生を歓迎

上記に書いたように社会的なもののお考え方を学び、フィールドワークや社会調査に励む学生を歓迎します。けっして楽なゼミではありませんが、ここ数年、多くのゼミ卒業生と現役のゼミ生との交流も含めて、トヨタの工場見学、常滑の焼物作り体験、熊野古道や東北の被災地へのフィールドワークなど楽しくゼミ活動を展開しています。ゼミ内で学年を越えた交流が活発です。こういったゼミ活動に積極的に参画する学生を歓迎します。

演習Ⅰ テーマ: 社会的なもののお考え方

内 容 スケジュール

優れた文献を読み、社会的な問いを立てる方法を教授するゼミナール。稲葉陽二著『ソーシャル・キャピタル』(中公新書、2011年)、稲葉陽二他編『ソーシャル・キャピタルのフロンティア:その到達点と可能性』(ミネルヴァ書房、2011年)、野沢慎司編集・監訳集・監訳『リーディングス ネットワーク論:家族・コミュニティ・社会関係資本』、デュルケム著『自殺論』(中公文庫、1985年)などを講読し、ゼミナールで報告する。ソーシャルキャピタルの視点で個人と社会のつながりの原理を学び、こうした視点に基づき、社会調査の可能性を検討す

その他

一部、講読文献: 荻谷剛彦著『知的複眼思考法:誰でも持っている創造力のスイッチ』など。

演習Ⅱ テーマ: 社会的なフィールドワークのお考え方

内 容 スケジュール

社会的なフィールドワークのお考え方や社会調査の手法を他人の調査経験から学び、基礎的なトレーニングを行うゼミナール。前期は、菅原和孝編『フィールドワークへの挑戦:<実践>人類学入門』と中野正大・宝月誠編『シカゴ学派の社会学』を輪読し、ゼミナールで報告する。後期はフィールドワークと社会調査を行う。年度末に調査報告書を製作する。フィールドのまなざしで世界をく発見>する「人生至る所フィールドあり」を実践する。

その他

一部、講読する文献: 見田宗介著『まなざしの地獄—尽きなく生きることの社会学』、児玉隆也著『淋しき越山会の女王』など。

演習Ⅲ テーマ: 社会調査からの発見と社会学の楽しさ

内 容 スケジュール

2年次、3年次に行ってきたフィールドワークと調査研究を卒業論文としてまとめるゼミナール。各自の卒業論文の問題関心に基づき、関連文献を読み、卒業論文製作に向けて報告と討論を重ねる。

その他

ここ数年、就職活動において参考になるプレゼンや考え方を学ぶために、ゼミ卒業生を交えての会合を開いています。積極的に活用してください。